

カエントケに注意！

山梨県森林総合研究所



カエントケは、初夏から秋にかけてミズナラやコナラなどの広葉樹の立ち枯れ木の地際や、倒木の近くに発生します。

きのこの形は、単一または地表近くの基部から2から10本程度枝分かれします。炎のような形に似ているためカエン（火炎）タケと呼ばれています。

カエントケは腐生性のきのこですが、栄養源等、生態はまだ不明な点も多いのが現状です。

毒性が高く、死亡例もあるきのこです。毒性には腹痛・嘔吐などの消化器系に対するものが多く、食べてから10分程度の短時間に症状が出るといわれています。また、皮膚に障害が出るような成分も検出されており、危険性が高いきのこです。

カエントケを処理する場合は、使い捨てのビニール手袋を使って除去し、ビニール袋に入れて、可燃物として収集する、または深い穴（30cm以上）を掘り、埋めるのが良いでしょう。

いずれにしても、危険なきのこですので、処理した後は、よく手を洗ってペーパータオルなどで拭きましょう。